

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103949		
法人名	社会福祉法人 諒和会		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	熊本市西区松尾町近津1364 1359		
自己評価作成日	令和6年 2月 7日	評価結果市町村報告日	令和6年 4月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年 3月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の好みや、嚥下状態に合わせて手作りする食事は、入居者の皆様に好評を得ている。家庭的な雰囲気の中で、入居者様の気分に合わせて、洗濯物たたみや野菜の皮むきや盛り付け、拭き掃除等、役割を担って頂きながら、充実した生活を送って頂ける様、努めている。新型コロナウイルスや、インフルエンザの流行で、ご家族や地域の方を交えた行事は控えているが、事業所内の行事やレクリエーションの充実を図り、楽しんで頂いている。より居心地のよい環境を提供できるよう来年度は、内装の大幅な回収を予定している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所隣接地に関連事業所として新たにグループホームが開設され、コロナ禍の中、職員皆さんで力を合わせて共に入居者を支援されています。入居者の生活は落ち着いたものであり、従来からの穏やかな生活が続いているようでした。近隣の散歩も日常的なものであり、事業所周辺地域からの入居者も多いため、窓から見える景色も入居者に馴染みのあるものです。職員の入れ替わりもあったようですが、従来からの職員手作りで季節を感じる食事の提供は現在も続いており、入居者の喜びを感じます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがとうの心をさりげないやさしさに」の理念のもと職員綱領を作成し事務所に理念と綱領を掲示しておりその人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	職員の入職時には初日に理念や方針等の研修を受けており、職員は毎年1回理念についての研修会を行っている。	新事業所開設もあり、職員体制の確立に取組む様子が聞かれました。出勤形態も様々であることから、理念の共有に向けた取組みの継続に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域の方を招いた行事や、法人内の行事は控えているが、近所への散歩等で近所の方にお会いした際情報交換を行っている。	法人全体での感染対策により、地域住民と入居者が関わる機会作りが難しかった。散歩時に地域の方と挨拶を交わしたり、地域役員の方へ管理者より広報を届けたりと日常的な付き合いは従来より続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事前面談でご本人様の思いやご家族様の思い、また当事業所の理念等をゆっくり話し合い、ご本人やご家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での新型コロナウイルス感染や、職員やその家族の感染があり、会議の開催は出来ていないが、推進委員に広報誌を提供したり、個別に訪問し情報交換を行っている。	コロナ禍及び感染対策のため、毎回の会議の開催が難しい状況であった。会議の開催ができなかった際には管理者より広報誌を届け、事業所の状況を報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員とは、月に1回程度地域の状況や、グループホームの実情等報告し連携を行っている。	地域包括支援センターを訪問し、状況や取組みを報告、情報交換を行っている。市役所・区役所へは日頃の報告・連絡・相談、届け出の訪問等を機会に状況報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に基づき身体拘束をしないケアを行っている。事業所内でも定期的に勉強会を開催し、職員全員が身体拘束について正しく理解しケアに当たるよう努めている。	法人全体で開催される委員会に管理者又は主任が出席している。事業所内では年2回の研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行動、言動が虐待に相当するのかを事業所内での勉強会で学ぶ機会を設けている。また、職員同士でお互いに気づいた事は注意し合える環境に努めている。		

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や事業所内で勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。また職員一人ひとりが勉強会で学んだ事を考え感想を入力し職員全員が見れるような取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時は文章及び口頭で丁寧な説明を行い、事業所独自の規定についてもきちんと説明を行った上で疑問等に答え理解、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナも落ち着きをみせているので今年より、運営推進会議を実施していく。また事業所の見やすい所にポストを設置し苦情相談窓口を設けている。	感染症対策を行いながら家族の面会を受け入れており、来所の際は職員より声を掛け入居者の状態を報告するとともに意見を尋ねている。家族には毎月広報誌を送り、事業所の取組みを伝えている。	法人の委員会で面会制限についての決定がなされているようです。コロナ5類移行後、家族も事業所内の様子が気になっておられる意見もありました。事業所の取組みや入居者の様子を伝える際、家族の安心感に繋がるような伝え方の工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回法人の運営会議に出席し、グループホーム内での問題点や解決できない事を検討している。また事業所内での勉強会や毎日の申し送り等で日常的に意見が言える雰囲気を作っている。	今年にはさくらの里・ひまわりの里合同の職員会議を開始し、マニュアルに沿ったケアの振り返りやケアの共有を行い、職員の意見を表す場でもある。管理者は両事業所の申し送りに参加しており、職員はいつでも意見や提案を伝えることができる。法人の運営会議には管理者が出席している。	訪問時は各種会議等開催の記録はありましたが、検討内容や経緯等の記録が充分確認できませんでした。情報の共有は職員の意見や提案にもつながると考えます。合同・単体での会議開催の継続と職員の意見を表す機会作りの工夫に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得や外部研修の支援を行っており、各職員の意識や技術向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を月一回行っている。また新人マニュアルに沿い、項目ごとに指導を行い、個々の知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のグループホーム一覧表に施設の情報掲載しており誰でも閲覧できる環境を整えている。また外部研修には多くの職員が参加できるようにフィードバックを行う事でサービスの質の向上に努めている。		

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学の際、各居室や浴室、トイレ等も見てもらっている。その際、利用者様及びご家族様から要望や不安点を伺い、それに対応し必要な説明を行っている。また、ご本人への訪問調査を行い、入居後スムーズに対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談でご本人様の気持ちやご家族様の思い、また当事業所の理念等をゆっくり話し合い、ご本人やご家族様が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所されて暫くは、全職員でご本人様をアセスメントをする。その後、担当職員を含めカンファレンスを行い現段階での必要な支援を職員間で共有しサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を営む住居人として生活内での役割を可能な範囲で担って頂き、共に生活を行う中で入居者同士のスムーズな関係が築けるよう職員が関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の体調に変化が合った場合や必要な物品等がある場合はご家族様に連絡し物品を持参してもらっている。その際、ご本人様と面会し本人様の近況等をご家族様に報告し信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の生活歴でどんな趣味があるのかを職員間で検討し園芸レク・おやつレク・散歩等、本人がこれまで大切にしてきたことが途切れないようにしている。外出が困難な方には電話でご家族や親戚の方と会話できる機会を設けている。	編み物等以前からの趣味を時折思い出したり、入居者の好みの番組を見たりと、従来からの生活をできるだけ継続できるよう支援している。化粧水等は以前から使い慣れた好みもあり、家族の協力も得ながら提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌レクや集団体操、誕生日会を開催し、入居者の方、全員が参加し楽しめるような取り組みを行っている。又、職員が間に入り会話がスムーズに出来るような支援している。		

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様、ご家族の方々との繋がりを今まで以上により一層深く求め、末長い交流に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々、それぞれの思いは違っており、その方にあったケアと接し方をすることで今後の支援に大きく左右するものである。今後も利用者様の希望・意向の把握に努める。	現状は自ら思いを表すことができる方も多く見られ、入居者の言葉や出来事は申送りで共有している。家族に会いたい等の希望には家族へ連絡する等、協力も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現役の頃の生活状況を今一度見直して、家族の方との常に詳しい環境を知る事にある。家族の方とのコミュニケーションは、とても重要である。今後も継続してご本人様の生活歴や生活環境の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に於いて、食事面、健康面には、様子観察を怠ることなく又、精神面で常にフォロー出来るように努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護ケアには、常に職員同士の報・連・相を大切に、利用者の情報交換を重視し、互いの連携プレーに努める。	担当職員による毎月のモニタリング、半年毎のアセスメントを行っている。担当者会議は管理者と担当職員、ケアマネージャーで行うが、できるだけ家族にも声を掛け参加頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どのような、ささいな変化も決して見逃さないように記録は、とても大事な作業、行動の一環である。万が一の証拠となる為、怠らないよう努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の方々との常日頃の交流を大事にし介護に関して、少しでも思いやりのある対応、希望に叶った生活設計を営んで頂けるように努める。		

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援に欠かすことが出来ないことが、地域の皆様方の援助によるもので、感謝の心を決して忘れずに地域社会に貢献していく。今後も豊かな暮らしを提供できるよう努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢者の健康状態を十分に把握し、万が一の場合には、敏速に慎重な対応できるよう、医療機関、職員の両者の連携プレーを確実に実行しよう努める。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は協力医をかかりつけ医とする入居者が殆どである。協力医からは毎週訪問があり、職員から一週間の様子・状況を伝えている。専門医受診の際は通院・訪問共にあり、家族の協力もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身近に存在するナースは、介護職員にとって大切なアドバイザーである。利用者の日常の健康状況を詳細に報告できるよう報・連・相は密にし信頼関係を築いていくよう努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への利用者の情報は、互いに共有してこそ、安心と安全が保たれるものと心得る。少しでも楽な体制を作って差し上げたいと思う。今後も病院関係者との情報交換や相談に努めていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人はもとより、ご家族の方、医療機関、そして介護職、穏やかな生活を過ごして頂けるように、常に話し合いを全うし、ご本人の一番望んでおられる生活を支援し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組むように努める。	重度化や終末期に向けた事業所の方針と対応は入居時に説明しており、本人・家族の意向も確認している。実際にその時期を迎える際には話し合いを重ね支援を行うが、現状は、事業所での生活が難しくなった場合は特別養護老人ホームへの住み替えや入院の例が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつ、いかなる時も慌てず、慎重に正確に対処、対応できるように、日頃から応急訓練を取得しておく。そして、職員の互いの連携プレーが成立するように努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に、地域の皆様方の支援は、とても有難いことである。日頃から支援を深め、お互いに協力が出来るように努める。なお、職員同士、万が一の行動に責任を持ち、敏速、慎重性を心掛け防災に対する意識の向上に努める。	今年の火災避難訓練は法人運営の他事業所と合同での開催であった。緊急時対応や災害等について年2回の研修を行っている。自然災害マニュアルは法人と管理者で行っている。	職員勤務体制も様々であり、有事の際は事業所職員での避難や安全確保が必要となることから、事業所単体での訓練や全職員での共有の場作りも必要と考えます。

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格、意志を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に努めている。介護の現場で働く上で守秘義務を守り、言葉や薬による拘束、また個人情報に関する勉強会や接遇の研修も定期的を実施する。職員全体、知識の向上、情報等を共有できる様に学ぶ機会を設けている。	日頃から入居者を尊重した言葉遣いや言葉掛けに配慮している。動画を利用し、介護における接遇について学ぶ機会を設けている。	現在ケアの統一に向け取組まれている様子が聞かれました。動画視聴後の意見交換等で、職員それぞれがどのような配慮を行っているか等、考える機会を持たれることに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方々の日常の状況を職員全体で十分に把握し、何を欲しているか、望んでいるか気持ちを汲み取ることが大事。互いのコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことに重点をおいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が穏やかで安定した時間を過ごされる為には、共に日々を送る職員の対応と支援、ケアにより大きく左右される。日常的に何気ない会話おひとつで利用者の表情や精神面が現れてくる。お一人おひとりの状況に合わせて接していくよう努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を感じて頂くため、季節の変わり日には、入居者と共に衣替えを行い、着用の仕方等も支援する。以前からの習慣を大切に、定期的な化粧レクを計画し、実施している。又、行事等の際は、衣類も入居者と一緒に考え必要に応じ化粧、マニキュア等楽しんで頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の状態や季節感、昔ながらの料理も取り入れメニューを考えている。好き嫌いのある方には、代用品で対応する場合もある。又、能力に応じて、生活リハの一貫として、盛り付けトレイ拭きも行って頂いている。	職員による手作りの食事・おやつを提供している。献立は事業所内で作成しているが、法人の管理栄養士によるサポートやアドバイスもある。職員も同じ食事を摂ることで入居者と話題の共有もある。好き嫌いには入居者個別に合わせた対応を行っている。入居者も参加し季節の保存食作りを行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食個別にチェックし、献立は偏りがないようにしている。水分提供は、個人の好みも取り入れ摂取しやすい様に提供している。体重測定は、月一回実施し変動に応じて、担当医に状況報告し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持	毎食後、入居者の能力に応じて歯磨きの支		

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者の能力に応じて歯磨きの戸掛けや介助義歯洗浄を行っている。又、毎月、歯科衛生士により口腔ケアの助言、指導も頂いている。		

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に毎月、排泄のパターンのチェックを行い間隔の把握を行っている。失禁に対しては、原因の追及と対応を職員間で検討し出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄パターンの把握や声掛け誘導等で、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。失禁が度々みられるようになった際には誘導の時間等を職員間で再検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給の提供以外でも、個人の好みに合わせてコーヒーや牛乳、カルピス等を提供している。又、散歩や体操、腹部マッサージを行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、午後からを基本としているが、希望があった際や夏場、汗をかきやすい方、皮膚トラブルのある方は、入浴日以外でも入浴やシャワー、足浴を行い、清潔保持、気分転換を図れるよう支援している。	週2回の入浴を基本としている。できるだけ浴槽を利用しているが、難しい方や希望されない方でシャワーを利用する際は足湯等配慮している。入浴日に限らず必要な際には清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は備え付けのものもあるが、希望に応じて自宅で使い慣れた布団や枕を使用して頂き快適に睡眠が取れるよう支援している。ベッドも身体状況に応じ電動ベッドを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人カルテに綴り、いつでも確認が出来るようにしている。処方薬の変更があった際は、朝、夕の申し送りや申し送りノートを活用し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除や洗濯たたみ、おかずの盛り付け等、その日の気分や得意分野に応じて役割を担って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、戸外に出て花や景色を眺めて気分転換を図る機会を設けたり、感染対策をした上で近隣にドライブに出掛け楽しく過ごして頂けるよう支援している。	入居者の状況もあるが、可能である時期には事業所周辺の散歩は日常的であり、近隣住民と挨拶を交わす等の交流も見られる。	入居者の状況により、時には外出が難しい時期もあるかと思いますが、入居者それぞれに対し、希望が見られる際には個別対応でも外出できる機会作りを期待します。

グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得たうえでご本人でお金の管理をして頂いている。支払い等は、ご本人ができるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナも落ち着いてきた為、少しずつ面会が増えてきている。また電話や写真等の交流、書面での様子を伺いにご家族共に喜ばれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下等共有スペースには、安全に配慮したうえで行事の写真や季節感のある飾り付けを行い、居心地よく過ごせるような空間作りをしている。	入居者が集うリビングは長閑な田園風景や山の様子を眺めることができる落ち着いた雰囲気である。入居者の生活や関係性、身体状況、安全に配慮し椅子を配置し、穏やかに過ごすことができる。職員と共に時間を過ごし、語らう姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや玄関先にマッサージチェアを設置したり、ベンチを設置して、日光浴をしながらマッサージを受けたり、入居者同士で会話を楽しむ空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具等持参して頂き、出来るだけ自宅にいるような雰囲気になるように心掛けている。ベッド上においては、いつも枕や布団の位置を整理整頓しておくよう心掛けている。	入居以前から使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。安全に配慮し、入居者それぞれに合わせた生活用品やベッド等の場所も検討しながら安心して心地よく過ごすことができる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者方それぞれの意向や身体状況に合わせて家具やベッドを配置し、位置を職員全員でしっかりと把握し、安全に安心して過ごして頂けるように配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホームさくらの里

作成日 令和6年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を作って、なんとか出すだけになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と一体感を持つような食事を提供する。 ・利用者様の希望をふまえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー内容の告知、調理を共同で行う。 ・個人の好きなメニューを時々、取り入れる。 	3か月
2	18	<ul style="list-style-type: none"> ・希望日に外出ができない。 ・職員数や業務上（急な休み等）の為、希望に対応できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望した外出ができる。 ・ドライブレクを実施し、入居者の方達を好きな場所へお連れする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの外出の希望を伺い、経過記録に記入する。 ・外出の計画を立てる。 	3か月
3	54	<ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓・清潔・清掃の強化が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が居心地良く、過ごせるようにする。 ・入居者の方と一緒に衣類の整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライドを傷つけない様に気を付けながら入居者と一緒に居室内の清掃や整頓を行う。 ・入居者の汚れた物を一緒に洗濯し洗濯たたみを行う。 	6か月
4	25	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の身体機能・認知機能が全体的に低下しており以前まで出来ていた事が出来なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の自立支援や個別リハを重視しグループホームでの生活を維持できる様にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リハ（洗濯たたみ・小鉢の盛り付け）等を行ってもらい個人の残存機能を活かした取り組みを行う。 ・個別リハを実施し身体機能の維持に努める。 	6か月
5	35	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策についての訓練。特に人員が少ない時間帯での非常呼集訓練。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、行われている消防訓練に関して、夜間を想定した訓練を実施する。 ・自宅待機者が速やかに集合できるかを訓練する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議等で地域への訓練実施の申し合わせを行う。 ・実際に非常呼集訓練を行い全員が速やかに集合できるような連絡を実際に行う。 	6か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

